



みんなの ホームステイの思い出



8 日間の「家族」

大垣市立東中学校 1 年 榎並 美月

私のホストファミリーは、母が Fiorenza、父が Uwe、ホストフレンドが Olivia で、その弟が私と同じ歳の Theo でした。

私はシュツットガルトの空港に着いたとき、わくわくした気持ちと同時に、これから一度もあつたことのない相手と 8 日間過ごすと考え、「言葉が通じるだろうか」という不安で、少し緊張していました。

でも、ケーニギンシャルロッテ高校で Olivia と顔を合わせたとき、ホストファミリーに挨拶をしたときに、温かく迎え入れてもらって、安心しました。

1 日目、ホストファミリーとの最初の食事は、蝶の形をしたパスタやパプリカの入った料理でした。作った料理をフライパンに入れたまま、机の上に置いたのには驚きましたが、少し辛いのがおいしかったです。デザートは、クッキーの上にマスカルポーネとブルーベリー、チョコをのせたケーキでした。その時に、日本で買ってきたお土産を渡すと、がま口の財布と、富士山の形をした付箋にとっても喜んでくれました。次の日、電車の中で Olivia が友達にそれをにこにこしながら見せていたときは、すごくうれしかったです。

1 日目の夜は、まだ緊張感が残っていて、なかなか自分から話をもちかけることができず、気まずい雰囲気になりましたが、2 日目には、2 人で折り紙を折ることが出来ました。その日から、毎晩「MIKADO」というゲームをやったり、日本語について話したりと、楽しく過ごすことが出来ました。



2 日目からは、朝「Guten Morgen」で 1 日を始め、店の人や出会った人には「Hallo」「Tschüß」と、何気ないところでの挨拶をドイツ語ですることができました。

5 日目、各ホストファミリーと過ごす日、私たちは、木組みの家が並ぶきれいな街と、シュツットガルトのテレビ塔に行きました。

ホストファミリーの車に乗っていると、高速道路でもないのに 140km 以上もだしていたり、ぐるぐる回りながら下に降りていく道路を通ったりして、楽しかったです。

テレビ塔は 200m 以上もあり、上ってみると、下から見たときよりも高く感じられました。屋根の赤い家が集まっている景色はドイツを感じる事が出来て、とてもきれいでした。Olivia たちと一緒にテレビ塔の一番上からヴィルヘルム動物園を探したり、空港から飛び立つ飛行機を眺めたりしているときは、たくさんの思い出がよみがえってきて、明日ホストファミリーと別れるのだと思うと、少しさみしくなりました。

木組みの家は、白の壁に茶色い柱、窓には赤い花という、私が想像していたようなきれいな家でした。この街は、テレビ塔から見てもきっと綺麗なのだろうなとしみじみ思いました。さらに、それが噴水のある広場の横に並んで建っていたので、すごく穏やかな雰囲気でした。

8 日間の内の 5 日間をホストファミリーやホストフレンドと過ごしました。それだけに、空港で別れるときはもう会えないと考えてしまい、悲しくなりましたが、最後は笑顔でお別れすることができました。



ホストファミリーとの思い出

大垣市立西部中学校 1年 河原 智華



私がホームステイしたのは、とても親切で優しいシュワーツ家でした。ホストフレンドのクリスティーナ、お父さん、お母さん、お姉さんのヘレナ、妹のカリナと一緒に過ごしました。

初めて会ったとき、私はとても緊張していて、うつむいてばかりいましたが、クリスティーナは一生懸命話しかけてくれました。

そんな姿を見て、私も待っているばかりではいけない思い、進んで話すようにしました。

お土産として、手ぬぐいと扇子、和柄のポーチ、漫画、算盤などを持って行きました。また、映画鑑賞したときには、みんなで日本のお菓子を食べました。どのプレゼントも大変喜んでくださったのですが、ホストファミリーが一番興味を示したものは、算盤でした。私は、自分が普段使っている算盤で、計算方法などを教えました。お父さんは「ワオ！」と驚き、スマホで私が計算をしている様子を録画していました。少し恥ずかしかったです。

5日目は、一日ホストファミリーと過ごし、山へハイキングに行きました。アウトドアの経験が殆どない私にとっては、体力面が心配でしたが、ずっとホストファミリーと楽しくおしゃべりをしていたため、全く疲れを感じませんでした。

クリスティーナとは、一緒に街をサイクリングしたり、ピアノを弾いたりしました。また、同じ部屋で寝起きしていたため、毎日、沢山おしゃべりをしました。クリスティーナをはじめ、ホストファミリーと過ごした時間は、一つ一つが今でもしっかりと記憶の中に残っていて、私にとっては、大切な宝物になっています。

初日はお互いに緊張していましたが、徐々に打ち解けていき、最後の夜には家族全員で何時間も話すようになっていました。私は、日本の学校、家族、大垣のことなど、色々な話をしたのですが、ホストファミリーのみなさんは、うれしそうにずっと耳を傾けて聞いてくださいました。

6日目のお別れの日、私は前夜にこっそり書いた手紙と日本の小銭などをクリスティーナの机の隅にそっと置き、お世話になった家をあとにしました。空港へ向かう車の中では、「もうお別れする時間が刻々と迫ってきている」と思うと、胸がキリキリして苦しくなりました。

「また会いましょう」と無理やり笑おうとしているクリスティーナを見て、私は抑えていたものが自然にあふれてきました。「日本に必ず来てね」と約束すると、クリスティーナは笑ってうなずいてくれました。

今、振り返ってみると、変に緊張していた自分がおかしく思えます。「言葉が通じなかったらどうしよう」という心配は、ドイツに行った初日になくなっていました。

言葉は、単なるコミュニケーションをとるための道具に過ぎません。大事なのは言葉ではなく、話そう、交流しようという心だということを学びました。私はドイツに行って、貴重な経験をしました。この思いを大切に、これからの生活に活かしていきます。



もう1つの家族

大垣市立星和中学校2年 伊藤 大記

僕がお世話になったホストファミリーは3人家族です。お父さんのトーマスさんとお母さんのモニカさんと一人息子のシモンです。

対面式のときはとても緊張して、一人で初対面の家族と過ごすことに不安しかありませんでした。

初日は、お父さんの英語を聞きとることができず言葉の壁を感じました。しかし、What を用いて「～～は何？」と聞き返したり、自分の英語力やジェスチャーなどを最大限に活用する努力をしたりすることで日を重ねるごとに徐々に聞きとれるようになり、会話も弾むようになりました。



朝食は、パンやハムやチーズやブラウニーなど豪華な食事を用意してくれました。そして、日本人である僕に気遣って温かい緑茶を飲ませてくれました。とても優しいお母さんです。また、夕食はプレッツェルやマウルタッシェンなどドイツならではのものを食べることができました。「これはおいしいですね」と言ってくれました。また、彼らは「これはドイツのパンです」などドイツ料理について説明してくれました。そして、プレッツェルの食べ方までやさしく指導してくれました。

シモンの部屋にはポケモンのポスターや NARUTO などのマンガがたくさんあり、日本が大好きなことがよく分かりました。シモンは、ドイツの魅力についてパンフレットを見せながら丁寧に紹介してくれました。また、ゲームやボードゲームをしてあそびました。シモンはどちらも強く、僕は



一回しか勝てませんでした。他には、シモンと一緒に折り紙をしました。シモンは、「授業で習ったけど難しくてできなかった。」と言ったけど、僕が「丁寧に教えるよ」「Let's try!」と言って、がんばってみたら不格好だけど立派な折り鶴が完成しました。

家族と過ごす最終日、午前中はショッピングと市の図書館に行きました。ショッピングモールも図書館も僕が見た中で、1番大きなものでした。午後からは卓球とバドミントンをしに行きました。シモンは卓球を毎日しているだけあってスマッシュがとても速く、完敗してしまいました。しかし、バドミントンは僕が部活で練習しているので負けられません。卓球をしていると、隣でやっているベトナム人に話しかけられて、一緒にすることになりました。彼らとも、シモンとも、言葉が通じなくても、楽しむことができました。

最後に感謝の思いを込めた手紙を渡しました。彼らは本当に本当にやさしく、手紙ではまとめきれないほど、心の底から感謝しています。言語は違えども相手の優しさは伝わってきました。最後、空港でホストファミリーと別れるときは「もうすこし一緒にいたかった」と思えるほどでした。この、5日間、毎日が楽しかったです。今までで、一番有意義な5日間でした。

この研修で僕が一番学んだことは「英語の必要性」です。「英語ができればもっともっと楽しめたのではないかと後悔しています。だから、これからは日々の英語の学習に力を入れていきます！」

積極的になれた自分

～ホームステイ～

大垣市立東中学校2年 河村 綾乃

私が5日間お世話になったホストファミリーは4人家族でした。私のホストフレンドの名前は、マイケと言い、英語で「M e i k e」と書くので、メイケというのかと思っていました。しかし、



ホストファミリーと会った時に、みんなが「マイケ」と呼んでいて、その時に名前の読み方はとても難しいなと改めて感じました。

初めてホストフレンドと話をした時、英語で話しました。私は簡単なドイツ語しか分からないし、マイケもあまり日本語が得意ではなさそうだったので、英語で話しました。英語で話した時に通じたかなと不安な気持ちでいっぱいだったけど、通じた時はもの

のすごく嬉しかったです。1日目の時は緊張したけど食事の時に「M a y I h e l p y o u ?」と自分から家族の一員になったつもりで話しかけられました。

2日目は、1日目の時に会えなかった妹のエレンと朝、会うことが出来ました。朝食は、シリアルやパンで日本とあまり変わったところがありませんでした。

3日目は、ノンシュバンシュタイン城に行きました。シンデレラ城のモデルとなった城ということで、とても楽しみにしていました。しかし、城に行くまでバスで3時間かかり、着いた頃には疲れてました。でも、城はとてもきれいでした。

4日目は、電車やバスで市内を観光しました。初めてドイツの電車に乗った時に驚いたのは、降りるときに毎回、ドアが開かず自分で降りたい時や乗りたい時にボタンを押すということです。日本は毎回駅員さんが確認したりするけど、ドイツはそんなことがなく電車にギリギリに乗る人や乗り遅れる人もたくさんいて、日本とドイツの違う所が発見できて嬉しかったです。



5日目は、1日中ホストファミリーと過ごせるとても貴重な日でした。ドイツに行く前からメールでどこに行きたい？と聞かれていて、遊園地とショッピングと言いました。この日はマイケの友達とホストファミリーのいとこの家族もいました。遊園地は久々に行ったのでとても嬉しかったです。ドイツの遊園地は見た目もきれいでジェットコースターなどの乗り物もたくさんあって大人でも十分楽しめるものばかりでした。

別れの日の朝、空港に送ってもらい、簡単なお別れ会をしました。そして、ホストファミリーと最後のあいさつでハグしました。私は泣かないつもりでいたけど急に寂しくなって涙が出てしまいました。ゲートをくぐる最後まで笑顔で手を振りながら別れました。このホームステイを通して、積極的に話しかけることが今までより多くできるようになりました。成長できたことをこれからも色々な場面で活かしていきたいです。

心が通じたホームステイ

大垣市立北中学校2年 永井 かのん

私のホストファミリーは、ホストフレンドのアリーナと、父ゲーナさん、母ラリサさんの3人家族でした。アリーナは日本語を勉強していました。最初はぎこちなかったけれど、私も日本語とドイツ語と英語でたくさん会話ができて、とても仲良くなりました。

1日目、家族で1時間ほど散歩をしました。夜は9時でもまだ明るく、とても驚きました。

2日目、この日私は、2回もアイスクリームを食べに行きました。カップからはみ出るくらいの量で、とてもおいしかったです。

3日目、朝食にパンやプレッツェル、フルーツなどを食べました。

この日の夜は、私のホストファミリーと榎並さんのホストファミリーとで、木曜日の広場での催しに行き、とてもenjoyしました！

トナカイの肉入りトルティーヤを食べたり、ホットアイスクリーム（アイスが油で揚げている）も、おいしかったです。



4日目の懇親会では、ゆかたを自分で着ました。着付けや合唱を、アリーナやラリサさん、ほかのホストフレンドもほめてくれて、うれしかったです。また、アリーナとオリビアで、『もののけ姫』の歌をうたってくれました。

5日目、ホストファミリーと、ルートヴィヒスブルク宮殿、テレビ塔に行きました。アリーナが「高いところは好きですか？」と、フリータイムの計画をたててくれたことが、とてもうれしかったです。お父さんは、車で送迎してくれたり、固いふたをいつも開けてくれました。また、いろいろな食べ物をすすめてくれました。

お母さんは、大きな町へ行ったとき、「危ないから」と言って、財布を預かってくれたり、いつもプレッツェルやお菓子をもちせてくれました。ジェスチャーを使って「おなかはいっぱいですか？」と聞いてくれました。

お土産の和風柄の小物やお菓子が喜ばれて、絵を描くことが好きなアリーナは「大人用の塗り絵」を気に入ってくれたようで、よかったです。私も帰りに、ドイツのお土産をもらいました。

アリーナがお父さんとお母さんの会話を通訳してくれました。最終日、日本のアイドルや漫画、学校の話などで盛り上がり、テレビゲームを一緒にしました。「もういなくなるとさびしい」とその夜言われて、私もつらかったです。だから夜1時くらいまで、ずっとたくさん話をし、「おやすみ」を言いました。

お別れは、家族みんなで空港まで見送りに来てくれて、お父さんとは握手を、アリーナとお母さんとは、お互いに抱き合いました。

ホストファミリーの優しさや、気さくで親切的なドイツの人たちとお別れだと思えば、自然に涙が出てきました。私がこの研修で学んだことはコミュニケーションの大切さです。文化や言語の違いはあっても、お互いを理解しようという気持ちがあれば、その壁を乗り越えることができます。ホストファミリーたちとお別れの時、私たちはまぎれもなく心が通じたと感じました。たった数日のこととは思えないくらいの、温かく充実した毎日でした。



優しい家族

大垣市立江並中学校 2年 高木 里桜

私がホームステイしたのはノバコビックさん一家でした。ホストフレンドはマーヤちゃんと言って、お母さんとお父さんは、セルビア人です。それに8歳の妹サラちゃんがいてとてもかわいかったです。

マーヤちゃんは、15歳で私より年上でした。しかし、とても面白い子で初めての海外、初めてのホームステイで不安で、緊張していた私を、いつも楽しませてくれました。それに、とても頼りになり、いつも私のことを気にかけてくれました。

日本から、竹とんぼ、駄菓子、抹茶味のチョコレート、扇子などを持っていきました。

竹とんぼは、遊び方を教えると、とても楽しそうに何度も遊んでくれて、うれしかったです。

ホームステイで一番心に残っているのは、マーヤちゃんだけでなく、家族のみんなとコミュニケーションをとったことです。お父さん、お母さん、サラちゃんは英語が分からず、思うように会話ができなかったけど、辞書や本などを通して、日本について教えたり、ドイツやセルビアについて教えてもらったりしました。また、朝食の時、お母さんに「何飲みたい？」と質問され、水が飲みたいと通じたのはうれしくて、もっと言葉を勉強したいと思いました。お父さんはとても優しく、夜にシュツトガルトの夜景が一望できる場所へ連れて行ってくれたりしました。また、日本に興味があるようで、夜私がお辞儀をしておやすみなさい。という、お父さんもお辞儀をして「おやすみなさい」と返してくれました。日本の礼儀をどの様にとらえているのか分からないけど、両手をそろえてお辞儀をしてくれたのはうれしかったです。

懇親会では、友達と協力して楽しみつつ感謝の気持ちを伝えることが出来ました。お母さんが仕事で来られなかったのは残念だったけど、ホストファミリーの方に楽しんでもらえました、抹茶を飲んだ時は、あまりおいしくなさそうだったけど、日本文化を知ってもらえたので良かったです。

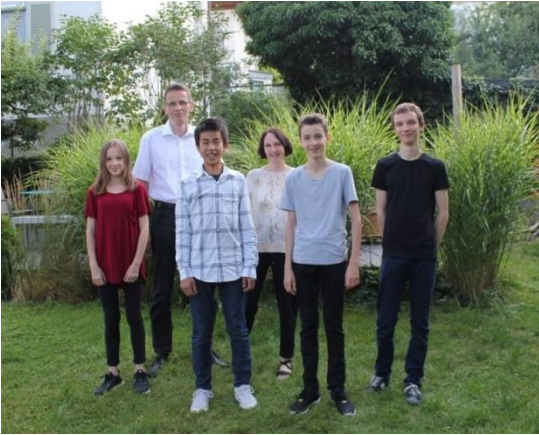
5日目は、マーヤちゃんの叔父さんに運転してもらって、ホーエンツォレルン城に行きました。その日は、ドイツの夏休み1日目でドイツの方々は、なぜか夏休み1日目に何処かへ行くらしく、大渋滞でした。お城は山の上にあり、日本とは違う絶景でした。夜にマーヤちゃんとお母さんとお散歩をしました。街並みがとてもきれいで写真を撮っていると、お母さんに、「どうしてそんなに写真を撮っているの」と聞かれました。そこで私、私の家の近所の写真を見せると、まったく違うと驚いていました。日本に行ってみたくてくれたので、ぜひ来てくださいと約束しました。

最終日、空港でお別れをしました。マーヤちゃんはまた日本に来るから会えるかもしれないのに、楽しかったこと、お世話になったことなどを思い出すと悲しかったです。5日間だったけど、私にはドイツに大切な家族が出来ました。



ホームステイをして ～ティムと過ごした6日間～

大垣市立興文中学校 2年 中村 伊吹



僕がホームステイした家族はホストフレンドのティムを含めて6人で、家族のように温かく迎えてくれました。

初日、ティムが空港に迎えにきてくれました。対面式の後、家族のことやシュツットガルトのことなど、いろいろな話ができ、すぐに仲良くなりました。家に着くと、おいしい料理を用意してくれました。その後、ホストマザーからお風呂や洗濯について教えてもらいました。僕が疲れていることを気遣って、早めに休むように言ってくれました。

2日目、学校訪問の時のゲームで、ティムが僕にドイツ語の発音を根気よく教えてくれました。市内観光の時

には、炭酸水ではなく、水がほしいと言ったら、ベックダイム先生に伝えてくれ、本当に助かりました。その日の夜、家族全員と仲良くなるために「ウノ」やテレビゲームをしました。ホストファミリーの皆さんは僕が楽しめるように配慮してくれているのがわかりました。

3日目、朝早く起きると、お父さんが朝食の準備をしているところを見ました。自分が食べていた朝食を何とお父さんが準備していることを初めて知り、手伝わずにいられない気持ちになりました。朝食の後、ノイシュヴァンシュタイン城へ連れて行ってもらいました。ティムが僕とコミュニケーションをとるために、日本語を調べては話してくれました。僕は、お城の感想を伝えることができました。帰りに見た大聖堂もとても広く感動しました。

4日目、まずヴィルヘルマ動物園に行きました。何を見たいのか聞かれたので、「これが見たい」と伝え、見学する順序を考えてくれました。その後、リッタースポーツのチョコレート工場を見学しました。自分で作ったチョコレートをパッケージに入れて、持って帰りました。ティムが描いたパッケージの絵がとてもおもしろく、気に入りました。

5日目、ポルシェ博物館に行きました。二日目に行ったベンツ博物館との違いが見られ、とてもおもしろかったです。その後、森の中の公園に行きました。公園では、ティムと妹と僕でカートに乗り、競争をして楽しみました。最後にテレビ塔を見学しました。最上階の展望台は、とても高く、シュツットガルトの街を見渡すことができました。

最終日、いよいよティムのホストファミリーとお別れする時がきました。ティムや家族が最後の最後まで温かい笑顔で見送ってくれたので、「帰りたくない。もう少し一緒にいたい。」という思いがこみ上げ、思わず涙がこぼれました。機会があったら、また会いたいと思いました。本当にありがとうございました。

この研修を通して学んだことは、ドイツの文化や習慣を知ることができたことと、言葉がわからなくても行動に表したり、身振り手振りで表現したりするなど、自分から積極的にとれば、気持ちが伝わるということです。今後の生活に生かしていきたいです。



初めてのホームステイ

大垣市立星和中学校 3年 棚橋 美友

私がホームステイさせていただいた家庭は、ホストフレンドのアメリーとアメリーのお母さん、お父さんの3人家族でした。

1日目は、ケーニギン・シャルロッテ高校で対面式がありました。私は初めての海外とホームステイでした。日本での受け入れもしたことがなかったので、楽しみという気持ちよりも不安や緊張の方が強かったです。でもアメリーは日本語で、お父さんは英語で優しく話しかけてくれたので安心しました。家につくとお母さんが夕食を作ってくれてくれました。夕食の後には、日本から持ってきたお土産を渡しました。お土産には箸、箸置き、忍者型の爪切り、海外で人気があると聞いた駄菓子を持っていきました。すごく喜んでくれたし、それを通してアメリーと日本語と英語の両方を使って会話ができたことが嬉しかったです。



2日目は、昼食後の自由行動で市内見学の時間がありました。その後に行ったカフェで、オレンジナを飲みました。日本のオレンジナよりも炭酸が少し強くて、オレンジの果肉が入っていて美味しかったです。家に帰ってご飯を食べた後、私とアメリーは相部屋だったので、お互いの家族についてたくさん話をしました。アメリーのお母さんはオペラ歌手で、お父さんはオーケストラでヴァイオリンを弾いているそうです。2人ともオペラ座で働いていると言っていました。お父さんの影響で、アメリーも6歳の時からブルガリアの先生にヴァイオリンを習っているそうです。ピアノも12歳の時から習っていると言っていました。私もヴァイオリンとピアノを習っているので、話が合ってとても盛り上がりました。

3日目はノイシュバンシュタイン城とウルムに行きました。ノイシュバンシュタイン城の窓から見える景色は、本当に綺麗で「また見に来たい!」と思いました。その後に行ったウルムではあまり時間がありませんでした。でも、アメリーが私のところに来て説明をたくさんしてくれました。

4日目は懇親会がありました。最初は緊張したけど、なんとか練習の成果が出せたと思うのでよかったです。私が点てた抹茶は飲んでもらえるか心配だったけど、お茶菓子と一緒に飲んでくれる方が多かったので安心しました。家に帰ってからは「漢字」について話しました。私の名前を漢字で書いてくれました。たくさん練習したと言っていたので嬉しかったです。

5日目はホストファミリーと一日中過ごせる最後の日でした。私がジブリが好きだと言ったら森に連れていってくれました。その森は、「もののけ姫」に出てくる森のモデルになった場所だと教えてくれました。「千と千尋の神隠し」に出てくる、豚のモデルになったとされる豚もいました。とても綺麗で空気が美味しかったです。家に帰ってからはバーベキューをしました。日本とは少し違う焼き方だったので面白かったし、美味しかったです。



お別れをする日、家を出る前にお礼の手紙を渡しました。空港に着いてからはお別れの挨拶をしたり、お礼を言ったりしました。振り返ってみて本当に楽しく、たくさんの事が学べたホームステイだったと思いました。この研修は私の一生の宝物になりました。

第 1 1 回 大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業 研修スケジュール

<事前研修>

日時・内容		場所
第 1 回	6月25日(土) 13:30～15:30 ・自己紹介 ・事務局からの説明 ・旅行会社からの渡航手続等説明 ・次回の研修に向けて	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 2 回	7月3日(日) 10:00～16:00 ・目標、パフォーマンス決め ・ドイツ文化、ドイツ語講座 ・調べ学習と発表	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 3 回	7月10日(日) 10:00～16:00 ・ドイツ語学講座 ・パフォーマンスの練習 ・過去の派遣団員との交流会	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
第 4 回	7月16日(土) 10:00～16:00 ・国際理解講座(オーストラリア派遣と合同) ・パフォーマンスの練習 ・出発式の練習	スイトピアセンター かがやき活動室6-3
第 5 回	7月21日(木) 10:00～14:00 ・出発式の練習 ・パフォーマンスの練習	スイトピアセンター 男女共同参画活動室
出 発 式	7月21日(木) 11:00～11:30	スイトピアセンター 特別会議室

派 遣 期 間	7月26日(火) ～ 8月2日(火)
---------	--------------------

<事後研修>

日時・内容		場所
第 1 回	8月27日(土) 10:00～16:00 ・報告資料作成 ・報告会の練習	スイトピアセンター かがやき活動室6-3
第 2 回	9月10日(土) 10:00～16:00 ・報告資料作成 ・報告会の練習	スイトピアセンター かがやき活動室6-3
報 告 会	11月19日(土) 13:30～15:30	スイトピアセンター スイトピアホール



【第 11 回 大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会
大垣市室本町 5 丁目 51 番地 スイトピアセンター学習館 2 階
TEL 0584-82-2311
FAX 0584-82-2314
URL <http://www.i-oiea.jp>

発行 平成 28 年 11 月